

知 恩 第29号

目 次

- | | | |
|---|-----------------------------------|---|
| 1 | 恩光碑保存会の2022年(令和4年)の行事について..... | 2 |
| 2 | 灰爪の丘の史跡について | 3 |
| 3 | 坂さんぽ「灰爪の坂」(柏崎市立博物館学芸員・中野純様より) ... | 4 |
| 4 | 佐藤信近の脇差の記事ご紹介 | 7 |
| 5 | 水戸殉難者恩光碑保存会・役員会にご協力を | 8 |



水戸城大手門



水戸城隅櫓



土塁とモミジ・イチョウ(11月17日)

10月10日、役員会を開催し、恩光碑保存会の2022(令和4)年の行事予定や史跡の維持管理でお世話になっている各地の方々と
の連携等について協議しました。

コロナ禍の今後については予断を許さないところではありますが、
感染防止対策を講じたうえで、年間の事業実施に向け、計画を進
めていくことになりました。

1 恩光碑保存会の2022年の行事について 会長 大森 信明

① 総会：2022.3.27(日)10:00~12:30

祇園寺を予定します。

2022年および2023年以後の行事についてご説明しますので、ご参集願います。

市川眞一先生による講和も予定しておりますので、お楽しみに。

② 会津・新潟慰霊：2022. 7.1~2(金~土)

新型コロナにより2年続けて中止となりましたが、改めて実施を検討し、日程は2022年7月1~2日(金~土)で予定しました。

灰爪の丘の史跡は、尾崎様を始めとする灰爪の丘を守る会が維持、管理して来てくださいましたが、活動はメンバーご高齢により今年(2021年)限りとのことです。

2022年は尾崎様が対応してくださるそうですので、交流し、感謝の気持ちを伝えたいと思います。是非とも今回の訪問の機会をお見逃しないようお願いします。

③ 弘道館戦争慰霊祭：2022.10~11月頃

初めて開催を検討させていただきます。

弘道館戦争は、諸生、天狗双方共100人近くの戦死者を出した戦いでした。

しかし弘道館戦争から150年以上経ちますが、慰霊祭は行われておりません。

諸生、天狗共に弘道館で学んだ仲間であり、藩を思い、日本を思うという点では同じだったのに、何故水戸藩士同士で戦うことになってしまったのか。藩士たちも、時間が経って冷静になって見て、争いをしたことを残念に思っているかもしれません。

私は、諸生、天狗分け隔てなく、すべての英霊を慰めるべく慰霊祭を行いたいと思いました。水戸城の整備事業も一段落し、よい機会と思います。

実現のため、幕末維新水戸有志を偲ぶ会、水戸市、茨城県、弘道館に協力を呼び掛けてまいります。



弘道館正門



戦いの痕が残る

④ その他

2023年以後になるかもしれませんが、鯉淵勢に関する勉強会、大田原の史跡訪問、水戸近郊の史跡巡り(結城寅寿墓所、朝比奈知泉墓所、市川三左衛門の慰霊碑、横山大観生誕の地、長岡原刑場、赤沼獄舎、神応寺・慷慨淋漓の碑の見学、市毛善八郎の碑、諸生党決起の地・厳入寺、等)などを検討しています。

また新型コロナの影響で先延ばしになっている、千葉匝瑳市での慰霊と、祇園寺・恩光碑での慰霊祭も早々に行いたいと思います。2023年の同年開催も検討したいと思います。

2 灰爪の丘の史跡について

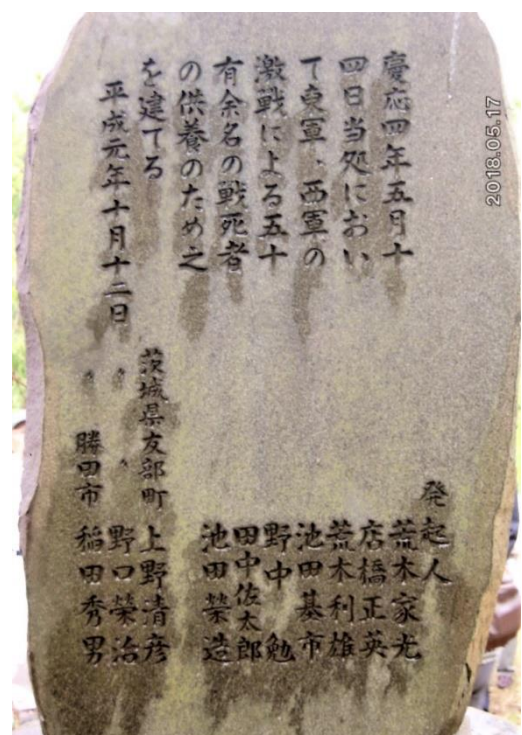
灰爪の丘は、土地の所有者の荒木様親子が他界された後は、尾崎忠道様が管理をしてくださっています。尾崎様は、2018年にはお仲間と「灰爪の丘の史跡を守る会」を立ち上げ、維持管理に尽力してくださいました。

しかし残念ながら、尾崎様をはじめ会のメンバーは全員ご高齢であり、活動は2021年限りになるとのことです。多大な貢献をしていただきました 尾崎様、並びに灰爪の史跡を守る会の皆様に、心より感謝を申し上げたいと思います。

なお、尾崎様のご努力により、今後は灰爪自治会が史跡の維持管理を引き受けてくださることになりました。2022年に訪問の際には、関係する方々にご挨拶したいと思います。



灰爪の丘 供養塔と碑文



3 坂さんぽ「灰爪の坂」(柏崎市立博物館学芸員・中野純様より)

中野様が柏崎市立図書館の広報誌に執筆された、坂さんぽ「灰爪の坂」を当会HPにリンクしていたところ、中野様がお気づきになられ、次回柏崎市訪問の際は、情報交換をしたいと連絡をいただきました。

諸生党が奥羽越列藩同盟に加わり共に新政府軍と戦ったことは殆ど知られておりません。それを詳しくお調べになり、広報誌で紹介して下さったことは、私共にとってありがたい限りです。

坂さんぽ「灰爪の坂」は当会HPから閲覧できますが、ご欄になれない方もおられると思いますので、以下に抜粋引用します。

昭和52(1977)年、西山町灰爪の畑から、戊辰戦争における水戸藩諸生党の戦死者と思われる遺骨が発見された。しかし、水戸市民たちの間では諸生党は逆賊とされており、「供養など必要ない」といった空気が強く残っていた。

徳川御三家のひとつで、名君・徳川光圀(水戸黄門)を輩出した水戸藩では、幕末になると諸生党(佐幕派)と天狗党(尊王派)が、血で血を洗う抗争を繰り広げていた。明治45(1912)年刊行の『水戸藩党争始末』は、その凄惨さを「屍骸は積て山を為し、流血は漲て川を為す」、「水戸武士たる者、殺戮し盡して殆ど子遺なきに至る」と記している。

最初は諸生党が実権を握った。天狗党とその協力者に対する弾圧は苛烈を極め、一族もろとも容赦なく処刑していった。しかし、やがて戊辰戦争が始まると諸生党は賊軍とされ、朝廷から討伐命令が出された。ここで形勢は一気に逆転する。天狗党からの凄まじい報復を受けた諸生党は、たちまち勢力を失って水戸を追われた。そして、奥羽越列藩同盟(旧幕府支持勢力)の傘下に入り、会津藩から越後方面の防衛を依頼されて柏崎へ進む。

灰爪の坂(西山町灰爪)は、標高約55mの丘を越える坂道である。丘の上には後谷ダムがある。現在は県道48号長岡西山線が開通しており、海岸線の石地からここを經由し、薬師峠を越えて宮本(長岡市)へと至る。坂の下には県道574号寺泊西山線とJR越後線が並走し、出雲崎、寺泊へと抜けている。近くに石地駅もあり、二方向からの街道が交差する交通の要害である。かつてこの地で、壮絶な戦いがあった。

慶応4（1868）年、この年の梅雨は雨量が多く、5月7日（新暦6月26日）に長岡で信濃川が氾濫した記録も残っている。灰爪の坂も大雨でぬかるみ、泥だらけの状態であった。新政府軍の先鋒は高田藩が命じられており、高田（上越市）から長岡へ至る街道を押さえることが、この先の戦局を大きく左右した。すでに列藩同盟軍は赤田の戦いに敗れ、妙法寺峠（当時、曾地峠はまだない）を越える山沿いの街道を奪われている。鯨波の戦い、椎谷の戦いでも連敗しており、この灰爪を失えば海沿いの街道までも奪われることになる。

最新式のライフル銃を装備した新政府軍に対し、旧式のマスケット銃や火縄銃を主要装備とする列藩同盟軍は圧倒的に不利であった。射程距離、命中精度、破壊力、そして連射速度に格段の差があり、緒戦は有利に展開できても、次第に圧倒的な火力に押しまくられてしまうのである。こうした戦況の中、諸生党笥隊150余名は大砲を丘の上まで引き上げて、新政府軍の進攻に備えていた。

5月14日（新暦7月3日）早朝、灰爪の坂で戦闘が始まった。この日も大雨が降っていた。新政府軍は薬師峠へ攻め込み、峠を守っていた会津藩を駆逐した。そのまま海岸部へ向かって進軍し、灰爪めがけて大砲2発を撃ち込んだ。灰爪にいた諸生党 笥隊は、薬師峠から敗走してきた会津藩と軍議し、ひとまず市野坪（出雲崎町）まで引くことにした。

朝五ツ（午前8時）には雨が止んで曇り空となった。市野坪には諸生党朝比奈隊が駐屯していた。ここで兵力を増強し、再び灰爪へと引き返す。

そこはすでに新政府軍が占拠していた。諸生党はこれを奪還するため、刀や槍を武器に灰爪の坂を勇猛果敢に突撃した。泥まみれの激しい肉弾戦の末、ついに丘の上までたどり着く。会津藩組頭の井上哲作は、この激闘の様子を「水戸藩大いに奮発、その山上へ白刃拔打、たおされ、たおされ、終にかけあがり、敵追払い」（『井上哲作戦争日記』）と書いている。

だがしかし、それはつかの間の勝利であった。やがて新政府軍の援軍が到着し、灰爪の丘の周りを取り囲んでいく。砲撃が開始されると弾雨にさらされ、なすすべもなかった。総崩れとなった諸生党は、寺泊、弥彦方面まで撤退した。

灰爪での諸生党戦死者は53名（重傷後死亡者を含む）に及ぶ。北越での諸生党の戦いの中で、最大の犠牲者を出した激戦であった。諸生党撤退により、信濃川左岸には新政府軍の行く手を阻む者がいなくなった。一方、右岸では朝日山（小千谷市）で一進一退の攻防が続いていた。新政府軍は膠着した戦局を打破すべく、濁流の信濃川を左岸から強行渡河して奇襲攻撃をかける。5月19日（新暦7月8日）、長岡城が落城した。

灰爪の畑から発見された4体の遺骨は、新潟大学医学部解剖学第一教室で鑑定された。それぞれ、顔面に鋭利な刃物による損傷が2か所ある30歳前後で身長165cm前後の男性、右頭部に鋭利な刃物による斬創が2か所ある30歳代後半で身長149cm前後の女性、傷のない20歳代前半で身長151cm前後の女性、刃物による切創がある男性と思われる右上腕骨と判明した。

遺骨が発見された場所には、地元住民らの尽力によって、平成元（1989）年に供養塔が建立された。戊辰戦争から150年目にあたる今年の5月17日、副市長をはじめとする水戸市の関係者が訪れ、供養塔の前で鎮魂の祈りを捧げた。供養塔は遠く水戸の地を向いて建っている。

諸生党を率いた市川三左衛門の辞世の句は、「君がため捨つる命は惜しまねど忠が不忠になるぞ悲しき」とされる。時代に翻弄されながらも崇高に生きた武士たちの魂は、故郷へ帰れたのだろうか。



4 佐藤信近の脇差の記事ご紹介

柏崎市尾崎様が、弥彦村の民家に伝わる「佐藤信近の脇差」が見つかった、との新聞記事を送っていただきました。ご参考に。

弥彦に幕末動乱の跡

(新潟日報 2021.8.24)

幕末の水戸藩家老、佐藤信近のものと思われる脇差し「弥彦村走出



水戸藩家老の脇差し発見

越後を敗走 寺泊の漁師に託し病没

弥彦村の民家に伝わる脇差しが、幕末の政治的動乱で越後を敗走し、現在の長岡市寺泊で病没した水戸藩家老の佐藤信近のものと思われることが分かった。同村走出の菅沼孝一さん(66)宅に伝わるもので、佐藤が生前、寺泊で漁業を営んでいた菅沼さんの曾祖父、喜八さんに自身の用いを頼んだ際に譲り渡したと語り継がれてきた。菅沼さんは「歴史的に翻弄された水戸の武士が新潟で敗れた証。受け継いできた先祖に感謝したい」と話している。

佐藤信近は江戸時代末期の水戸藩家老で、15代将軍徳川慶喜の兄で水戸藩主だった徳川慶篤に仕えた。当時の水戸藩では、門閥派の保守勢力「諸生」と下級武士らで構成する「大御党」が勢力争いをしており、佐

藤は諸生党の中心人物の一人だった。幕府の介入もあって一時は諸生党が藩政の実権を握り、天狗党は厳しく弾圧された。

しかし倒幕の声が高まり、幕府側の旗色が濃くなるにつれて、天狗党と諸生党の立場が逆転し始める。同じ藩三家の尾張、紀州両藩が朝臣側に付く中、官軍は水戸藩内で力を持つ佐藤派の諸生党を討伐するたため、彼らに恨みを持つ天狗党を巻き入れた。諸生党は水戸から会津、越後に逃れ



脇差しを手に思いをはせる菅沼孝一さん(左)と込山一仁さん(右)＝弥彦村

戦闘を続けた。佐藤らは現在の柏崎市周りで敗退すると、出雲崎、寺泊を北上しながら撤退。その途中に佐藤は病に倒れ、寺泊で漁師をしていた菅沼さんの曾祖父の喜八さんに刀と脇差しを託して市を依頼した。喜八さんは同じ藩三家の尾張、紀州両藩が朝臣側に付く中、官軍は水戸藩内で力を持つ佐藤派の諸生党を討伐するたため、彼らに恨みを持つ天狗党を巻き入れた。諸生党は水戸から会津、越後に逃れ

脇差の長さは約70センチ。柄の部分にサメの皮が使われている。小柄には細かい意匠が施されており、身分の高い人物の脇差であることがうかがえる。

込山さんは「幕末、明治維新の激動の歴史の一端を示すものが、弥彦の地に埋もれていたのは感慨深い」とした上で「喜八さんは、武士が自分の刀を託すほどの人徳があったのだろう」と思いをはせる。

佐藤が託した刀は行方不明で、現存するのは脇差しのみ。菅沼さんは「どういういきさつで先祖が用いを頼まれたのかは分からない。ただ、幕府軍の武士の刀を持っていることが、もし官軍にばれたら大変だったはず。よく受け継いでこられた」と話す。脇差しを今後どのように保存していくかは検討中だ。

5 水戸殉難者恩光碑保存会・役員会にご協力を

昨年の岡見さんの事務局長退任以後、役員退任希望者が続いており、役員会の立て直しに取り組んでおります。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

★編集後記

私たちがワクチンも接種し、3密も避け、自粛生活を心がけてきた結果、11月中旬の茨城県では新規の感染者数が一けた台で推移しています。

一方で、またも感染拡大の局面に入った国もあり、「コロナ後」ではなく「コロナとともに」生活していくのかと考えているところです。

大森会長を中心に、今後の本会の行事が計画されておりますが、不安のない万全の状態で開催したいものです。

皆様もぜひ、体調管理に留意され、たくさんの方々が行事にご参加くださいますようお願いいたします。
(樹)

知恩第29号

発行日

発行所

発行人

作 成

2021年(令和3年)11月21日

水戸殉難者恩光碑保存会

大森信明

事務局 編集委員会